

経営理念	【教育目標】	のいちっ子 つながるこころ のびゆく子
	【経営目標】	『幼児一人一人を大切に、自ら学ぶ意欲と環境にかかわる力を培う幼稚園』をめざす。
	〈子ども像〉	○じょうぶな からだ ○きれいな こころ ○かがやく ひとみ
	〈幼稚園像〉	○意欲的に遊ぶ子どもの育つ幼稚園 ○自分で考え行動し、自らしようとする子どもを育てる幼稚園 ○友達と仲良く、思いやりのある子どもの心を大切に作る幼稚園
	〈教師像〉	○豊かな感性をもち、感じたことや考えたことを表現する子どものいる幼稚園 ○子どもが自分でやってみようとする意欲を大切に自立して自立している力を育てる教師 ○一人一人の子どもに寄り添いながら援助する教師 ○豊かな環境作りを努め、子どもらしく思いやりよく遊ぶ生活を保障する教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師

中期経営目標		短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
適正な幼稚園経営	園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために職員が互いに協働する幼稚園を構築する。	① 教職員の安全や防災に対する意識を高め、子どもが自ら身を守ることができるようになるための安全教育を推進していく。	プール時・預かり保育時に初めての避難訓練を行うことができた。新たな取り組みを実践したことで、プールまで放送が聞こえないこと・預かり保育時間の人数把握の仕方・担任との連携等、新たな課題が見えてきた。また、あまり意識が向いていなかった対応マニュアルを読むということにも意識を向けることができ、職員が、対応マニュアルの大切さを感じることができた。また、訓練を重ねることで、子ども達は、危険から身を守り安全に行動できるよう力がついていた。	B	職員の意識変化が一番大事であり、対応マニュアルを見て確認をする態度ができたことや新たな取り組みにより、新たな課題が見つかったことが成果である。	A	職員が高い意識をもち対応マニュアルを活用しながら避難訓練に取り組むことや訓練内容の工夫改善を行い次年度につなげ安全教育を推進していくように努める。
		② 保幼小中の連携教育への育ちと学びのつながりを意識した交流内容を充実させる。	コロナ禍ということから、交流活動や合同研修会等が計画通りには進まなかったが、できないではなくできる範囲の方法を考え、保・小・中と連携や交流を行った。保・小のお便りに目を通すことや月刊誌等で知識や情報を得ることができ、それぞれの知識を生かして、交流活動を行うことができた。	B	コロナ禍でできなかったため、仕方がない部分がある。できる範囲の中で交流を行ってきたのは事実である。難しい中で工夫をして結果的にやれないこともあったが、新たな交流の良さも見つかったことは成果といえる。	A	厳しい状況下でも小学校と連携し、事前事後の会を行い互恵性のある話を進めていけるような関係性を築いていくことや、連携に関する研修報告を行ったりして情報共有しながら連携教育を充実させていく。
充実した教育課程	幼稚園教育要領の内容に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情、意欲及び態度を育てる。	① 一人一人の幼児理解に努め、主体性を育むための援助を行う。	日々の振り返りでは、子どもの姿を同僚と共有し理解を深めたり、視点をもって観察への記録をとったり、子どもの内面を的確に捉える難しさを感じた。日々の振り返りや職員会、研修会等を積み重ねていながら、その時に必要な環境構成や主体性を育むための援助ができるよう子ども一人一人の内面理解を深めていくことに課題が残った。	C	研究主題にも取り上げられるような大事なことに対し、もっとやらなければいけないという姿勢や振り返りを行い、しっかりと課題を見つけていることは成果であり、一番大事なことである。職員の思いや人材育成を大切にして、なお一層の取り組みを進めていただきたい。	B	日頃の子どもの姿の伝え合いを密にしたり新たな研修内容を取り入れたりして、充実した研究方法を工夫改善し一人一人の幼児理解を行い保育の質の向上に努める。
		② 遊びの研究を行い、保育の質が高まる研修を重ねていき、実践につなげていく。	学期に1回ではあったが、研究日を設け教材研究を行うことができた。職員それぞれが、折り紙や手遊び等を出し合い遊び方を伝えたり考えたりすることで、知らなかった遊びを知ったり、バリエーションが増えたり、この遊びが子ども達にとってどんな力につながり何が育っているのか等、再確認することにもつながった。保育実践に取り入れていったことで、興味を示し自らやってみようとする姿につながった。	B	教材研究日を設け、実践してきたことで、教材研究を意識することの大切さを感じ、自己研鑽することに気づく大きな取組であった。職員間の仲間意識や信頼関係が、学ぶ楽しさと意欲につながっている。今後の飛躍ステップを期待したい。	A	意識をしたことで、教材や遊びの見直しを行う頻度が上がってき、今後もどんな教材研究が必要か考えていき、実践につなげていく。
		③ 栽培活動の年間計画を立て、子どもの発見や気づきを通して命の大切さにつなげていく。	年間計画を立てたことで、計画的に栽培活動を行うことができた。職員が率先して日々の世話をしていく姿を見せ、子どもの発見や気づきをしっかりと拾い共感したり一緒に考えたり、園鑑や資料を取り入れ子どもが知りたい時にすぐ調べることができる環境を整えていった。そのことで、子ども達から世話をすることや生長の喜びを感じることに、その過程を大事にすることで、収穫をして野菜の命をいただくことに結びついていることに気がつく子ども達の姿が見られた。	A	家のものや買ったものだと食べないが、子ども自身が園で育てた野菜を持ち帰ることで、嫌いなものでも喜んで食べる子ども達の姿に嬉しさを感じており、食育につながっている。園で過程を大事にしてきた取組が成果となっている。	A	その都度加筆修正を加えながら、その年ならではの年間計画を立て、大人が興味関心をもち、子どものつづがきにも耳を傾け、失敗も成功に変えていけるよう、今後も飼育栽培活動の過程を大切に捉えながら、命の大切さにつなげていく。
信頼される幼稚園	保護者の安心を得ることや地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園をめざす。	① 保護者に対して、子どもの姿をわかりやすく情報発信し、保育の意図や子どもの育ちを保護者と共有・共感していく。	学級だよりや送迎時、学級前への掲示等を必要に応じて工夫を行い、子どもの成長や遊びの様子、保育の意図など保護者にわかりやすいように伝えることができた。また、保護者の様子の変化や不安を感じているような姿を見逃さず、個別に懇談を重ねてきた。そうすることで、保育の意図や子どもの成長を共有・共感し、保護者の気持ちの安心につなげることができた。しかし、自分たちが伝えたいことと保護者の知りたいことのずれにも気づき課題となった。	B	コロナ禍で園庭開放や懇談会がなく保護者同士、また担任と気軽に話し合う場がなかった。保護者に対して、送迎時には、口頭で具体的な一場面の姿や伝えてほしいことを伝えてくれたりするため、担任を信頼して子どもを預けていたということは成果ではないか。	A	個人懇談を年間2回は行ったが、保護者と担任の話し合う場が少なかったため、子どもの姿の伝え方の工夫や保護者がいつでも担任と話しやすい面談週間を作るなど保護者との共有・共感が充実できるよう、情報発信をしていく。
		② 学級懇談会や講演会の内容を充実させ、保護者の子育てを支援していく。	学級懇談会を行うことができなかったが、講演会を学年1回ずつ行ったり、悩みや相談があるといつでも声をかけてもらえる関係性を築くようにしたり、必要に応じて個別懇談を行うことができた。参観や講演会での子どもの姿や情報を受け入れ家庭で取組んで見ようとしている保護者がいたが、些細な悩みを相談していいのか迷う保護者もあり、内容や子育て支援の充実に向けて工夫が十分できなかった。	B	保護者の不安感を取り除いてあげたいという思いから自然に支援ができていく。講演会の内容がよく、子どもへの接し方について具体的に教えてもらい、子どもと向き合う大切さを早い時期に知ることにつながった。コロナ禍でもできることを工夫して実施している。	A	保護者が安心して子育てができるよう、保護者に合った参観や講演会の内容を常に考え、充実できるようにしていく。今後も子育てが楽しいと思えるような子育て支援をしていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	【教育目標】	えがおかがやく ひがしの子
	【経営目標】	『遊びを通して健康なところからだを育む幼稚園』をめざす
	<子ども像>	○明るく元気な子ども ○自分のことは自分でしようとする子ども ○思いやりのある子ども ○人やものに自分からかかわろうとする子ども ○自分の思いを表現しようとする子ども
	<幼稚園像>	○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○豊かな心情や知的好奇心を育てる幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園
	<教師像>	○幼児との信頼関係を大切にす教師 ○創意工夫して保育する教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○保育の研究・研修に努める教師

中期経営目標		自己評価		学校関係者評価		改善策等	
短期経営目標(評価項目)		達成状況	評価	考察	評価		
適正な幼稚園運営	園務分掌が適正に機能し、子どもたちのために、職員がお互いに協働する幼稚園を構築する。	① 園全体の危機管理を理解し、より実践につながる取り組みを行う。	不審者対応訓練や通報訓練を行い、自分の役割や学級の子どもの動きについては、意識して実施することができた。しかし、全体を見て動くことや職員同士の声のかけ合いは十分でなかった。	C	新しい試みができており、学校評価アンケートでも園の取組を保護者が高評価している。課題はまだあるので、少しずつ改善できるように取組んで欲しい。地域を巻き込んでの避難訓練を行うと良い。	B	関係機関や地域の方と連携した避難訓練を年2回実施する。職員一人一人が責任をもち、声を掛け合いながら子どもを誘導できるように努める。
	保幼小中との円滑な接続性を理解し、学びや発達を見通した計画や実践を行う。	② 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」にあてはめて共有することができた。幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を意識して保育を行った教職員が75%。コロナ禍で計画通りに進めることができなかった。	B	できることを積み重ねていくことが、大事なので継続して実践してほしい。	B	取り組みの成果を基に、保幼小と連携を取りながら、より充実した実践へ発展させていく。制限がある中で、実現可能な活動を工夫し計画を行う。	
充実した教育課程	幼稚園教育要領に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情・意欲及び態度を育てる。	① ねらいに沿って指導を適切に行い、改善に努める。	終礼の中で週日案を活用して語り合うことで、子どもの姿や援助を振り返りやすくなり、週日案のねらいを意識できるようになった。また、週日案を作成にするに当たり、話し合いの場をもつことで、各学年の週日案を共有できた。	B	細やかな計画・実践が行われており、チームとしての活動がよく分かる。週日案を活用しながら、幼児理解を深め実践に繋げていってほしい。	B	継続して週日案について話し合いの場をもち、お互いの保育内容を共有する。週日案を基に振り返り、加筆したことを次週につなげ、保育の充実を図る。
	幼児が主体的に遊ぶことができる環境を工夫する。	②	子どもの興味や関心に応じた教材を工夫したり、環境を見直し整えたりすることで子どもが主体的に遊ぶ姿が増えた。教材研究を計画的に行うことは十分でなかった。	B	子どもが主体的に遊ぶことができる環境や子どもの育ちについて、話し合いの場をもち、環境が整えられている。園児の興味・関心が広がるような教材研究を計画的に進めてほしい。	B	教材研究を計画的に行っていくとともに、子どもの興味や関心にそった素材や道具を選んだり、職員間で伝え合ったりしながら環境を充実させていく。
	一人一人の幼児の特性や発達を肯定的・多面的に捉えながら援助を行う。	③	一人一人の子どもの特性や発達を理解することで、子どもを肯定的・多面的に捉え、より意図をもって援助することができた。学級全体で子どもの良さを認め合うことで、友達の良さに気付く場面が増えてきた。	B	一人一人の幼児の特性や発達に応じた対応ができていいる。子どもを肯定的に捉え、子どもの良さを認め合える場を意識することで、自尊心が高まり、意欲的な姿に繋がっている。	B	子ども一人一人の育ちに応じた援助ができるように保育での気づきを職員で共有していく。いきいき香南つ事業を活用したり、専門機関と連携したりしながら、より適切な支援ができるように努める。
信頼される幼稚園	保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を確立する。	①	月2回以上学級便りや登降園時に子どもの成長や経験していることを保護者と担任が日常的に会話をし伝えることができた。また、必要に応じて面談することで、保護者の安心につながった。しかし、学級だよりの内容については保護者に伝わりにくいことがあった。	B	学校評価アンケートから保護者の信頼が厚いと感じる。園児の育ちを保護者・教職員と共有・共感できていると理解できる。日々の保育を発信していくことが、保護者の安心につながるので、伝え方を工夫し、更なる保護者支援に努めて欲しい。	B	月2回以上の学級だよりの発行を継続して行い、学級内の具体的なエピソードを記載し、より保育の意図や一人一人の園での姿が保護者に伝わるようにする。
	保育参加日や散歩を通して、地域の方とつながる活動を行う。	②	保育参加日が例年より少なかったが、その中でもできる交流内容を考え実践ができた。しかし、地域の方に対しての働きかけが十分でなく、計画通り地域交流や園外保育に出かけることができなかった。	B	様々な制限がありながらもできていたことが、保護者アンケート結果からも推察できる。普段から地域と繋がっていると思うが、コロナ禍の中でも、地域と繋がる交流を工夫しながら進めてほしい。	B	地域との交流を年間計画に位置づけ、子どもと地域の方につながるができるように、交流内容を工夫して行う。園からも地域に対して積極的に働きかけていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	【教育目標】	みかんの里の げんきっ子						
	【経営目標】 (子ども像) (幼稚園像) (教師像)	『幼稚園における生活の全体から、豊かな体験を通して生きる力の基礎が身につく幼稚園』をめざす ○のびのびと明るく元気な子ども ○自分のことを自分でしようとする子ども ○友達と心を通わせ思いやりのある子ども ○自分なりに表現する子ども ○最後までやり通す子ども ○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達とつながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○身近な自然に親しみ豊かな心情や創造力を育む幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 ○子どもに寄り添い、深い信頼感や安心感を育む教師 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○環境や人とのかかわりが広がるよう工夫する教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○人間性豊かで、指導力の向上に努める教師						
中期経営目標		短期経営目標 (評価項目)	自己評価		学校関係者評価	改善策等		
適正な幼稚園運営	園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために教職員がお互いに協働する風通しのよい幼稚園を構築する。	①	教職員の安全に対する意識を高め、子どもが自ら身を守ることができるように安全教育(生活・交通・災害)を行う。	達成状況 ・避難訓練は、今年度は早朝預かり保育時間にも実施した。訓練をするたびに課題が出てくるが、職員の意識は高めることができた。子どもも指示や合図を聞いて状況に応じた避難ができていた。 ・生活の安全面では、園全体で遊具の使い方や遊びを見直し、共有した。しかし、日中ヒヤリとするような子どもの行動が見られ課題が残った。	評価 B	考察 危機管理については、職員の意識も高く訓練も計画通りできている。生活安全面は今後も見直しを行い、子どもが安全への感覚を身につけ意識を高めていけるような指導をお願いしたい。	評価 A	子ども自身が自分で考え安全に行動できる力を身につけていけるような安全教育を進めていく。状況に応じて機敏に体を動かせるように体を使った遊びを保育に取り入れ充実を図る。
		②	報告・連絡・相談に努め、職員同士のよさを認め合い、協働する。	・職員会や終礼で日々の保育や子どもの様子、担任の思いについて話し、情報を共有し協働することができた。時差出勤の職員については、終礼ノートや掲示板、声がかけても行った。	B	職員間の情報共有がきちんとできている。どの職員も保護者のことが分かっている。今後も園全体で連携した取組を工夫してほしい。	B	年度当初に報告・連絡・相談の必要性について、全職員(バス添乗・預かり・早朝預かり・同じ学級の職員同士)に共通理解を図り、意識を高めていく。
充実した教育課程	幼稚園教育要領の内容に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育てる。	①	子どもの興味や関心を捉え、工夫したり、試したりして主体的に遊びに関わる環境づくりを行う。	・子どもがやってみたいと思える環境づくりを心がけ、子どもの興味関心を捉え保育できた。また、子どもの様子を見守り、環境の再構成を行っているが、そこに担任の意図を織り交ぜながら、遊びの教材や子どもの動線について努力が足りなかった。園内研修で指導を受けたことを取り入れ、環境構成を行った職員は90%である。	B	子どもがやってみたい気持ちにすぐ試せる環境を準備するなど対応が早い。園全体で子どもを見守り援助していくとする雰囲気がある。そのことが何らかの形でフィードバックしているのではないかと感じる。	A	生活や遊びが充実できるように、子どもの発達、興味関心と共に教師の意図を織り交ぜながら、遊びの充実をめざした環境づくりを行う。
		②	自分の思いや考えを伝え合い表現し、相手の思いにも気づいていけることができるように援助する。	・年齢によっても言葉の課題は違うが、読み聞かせや言葉遊びを保育に取り入れたりと、相手に言葉にして返したり、言葉を引き出したり、自分の思いや考えを伝える機会を設けるなどていねいに関わることができた。 ・感じたことや思ったことを伝えようとした子どもは60%以上である。泣いたり怒ったりすることで感情を表している子どもも見られる。	B	保幼小中連携の取組”聴く”に対して話すということがでてくるのだと思われるが、意思表示ができる子どもの育成ができていると思う。	A	自分の思いが相手に伝える喜びを感じ、相手の話を聞くことで自分と友達の思いを通わせることを繰り返し言葉の使い方や表現の仕方を知る経験を重ねていく。
		③	一人一人の子どもの思いや育ちを読み取り、発達に応じた関わりを行う。	・研修リーダーを中心に、職員同士で意見を出し合い、幼児理解に努めることができた。発達を多面的に捉えることができ、他者の意見を聞くことで気づかされることも多く、幼児理解をもとにねらいを明確にし、環境構成や援助を考えることができた。	A	先生方が意識をもって保育・教育の質を高めようとする姿勢が見られるので、今後も組織の活性化や新しい取組ができるように努めてもらいたい。	B	園の実態に応じた研究の方法を見出し、自園の特色や課題を共有しながら、保育実践を通して子ども理解を深めていく。
信頼される幼稚園	保護者の信頼を得ることや地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園をめざす。	①	一人一人の子どもの思いや育ちを読み取り、発達に応じた関わりを行う。	・コロナ禍の中、保護者に園での様子が分かるように園または学級からの便りやドキュメント掲示を月に2回以上、時には写真を入れタイムリーに発信してきた。そのことは保護者にも好評で子どもとの会話にもつなげることができた。	B	郵便局に、幼稚園からのおたよりを掲示したり、幼児の作品を飾っているが、地域の方も喜んで見ている。決まった形でないものもあるとうれしい。コロナに関して仕方がないという保護者ばかりではないので、行事等の決定は、スピード感をもって知らせてほしい。	B	地域と園がつながるよう伝えたい内容を吟味して様々な形で幼稚園生活の新鮮な情報が発信できるように工夫する。 行事などでの決定については、感染等安全面を徹底しながらできる方法を園内でも協議し、できる限り早くお知らせができるように努める。
		②	望ましい生活習慣を身につけるために家庭との連携を一層進める。	・今年度も保護者アンケートをとり、保護者が知りたい情報を便りや発信したり、啓発を行うことができた。子どもには、視覚を使って全体に話をしたり、チェックカードを実施し、意識して発信を行った職員と十分な発信ができていなかった職員がいて課題が残った。	B	工夫した取組ができていると思われる。今後も保護者への声かけとなぜ必要なのかも伝えていってほしい。	B	園での様子や保育室の環境、子ども自身の意識を高める取組などを知らせ家庭と連携して取り組む。また生活習慣の必要性を啓発し伝えていく。保育所とも実態や課題を共有し、一貫した取組としていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

令和2年度 香南市立幼稚園における学校評価報告書

中期経営目標		短期経営目標 (評価項目)	自己評価 達成状況	学校関係者評価 考察	評価	改善策等
<p>経営理念</p> <p>教育目標 すこやか やすっこ げんきなこ</p> <p>経営目標 『幼児の育ちを大切にし、豊かな体験を通して生きる力の基礎を培う幼稚園』をめざす</p> <p>〈子ども像〉 ○友達と仲良く遊べる子ども ○たくましいからだの子ども ○きまりや約束の守れる子ども ○思いやりのある子ども ○よく考え工夫する子ども</p> <p>〈幼稚園像〉 ○子どもがいきいきのびのび楽しく生活する幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園</p> <p>〈教師像〉 ○豊かな心情や創造性が身につく幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園</p> <p>○幼児の心に寄り添い、共に行動できる教師 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○幼児の意欲、可能性を引き出す教師</p> <p>○互いに協力してチャレンジする教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師</p>						
適正な幼稚園運営	園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために教職員が互いに協働する風通しの良い幼稚園を構築する。	① 安全対策を進め、保護者や地域、関係機関と連携しながら様々な想定避難訓練を実施する。	引き渡し訓練では新たにeメッセージを使った訓練ができた。園外活動中や建物の構造を考え、火災、地震、不審者から身を守るために様々な想定で訓練を行った。実施案検討でも細かく話し合うことができ、具体的に個々の動きや全体の動きを意識することはできたが、臨機応変な対応は課題が残った。	引き取り訓練時に保護者の地震津波対策への啓発を行い、様々な想定での訓練なども工夫がされている。職員の危機管理に対する意識が高まっているため、連携をとりながら臨機応変な対応ができるよう実施してほしい。	B	引き取り訓練では、171伝言ダイヤルを利用した訓練の実施を再開する。また、臨機応変に対応できるように、訓練の中で職員の動きに関して細かく検証しながら進めていく。
		② 保幼小中一貫教育の充実に向け、保幼小でリズム運動等を中心とした体づくりの取組を進める。	制限がある中、感染防止のため十分な取組はできなかった。園内で運動の苦手な子どもの体の動かし方や援助の方法について話し合いができたことで、様々な運動やなわとびなど体力向上に向けての取組につながった。身体を動かすことが好きになった幼児は70%以上。	コロナ禍により交流活動はできなかったが、園での取組の工夫は見られる。また、成果指標は80%に達していないが例年であれば達成できていたと思われる。なわとび参観ではいきいきと取組ができていた。	B	実践できなかった小学校とのリズム運動交流を計画に取り入れたり、高知県教育委員会作成の「運動遊びプログラム」も併せて活用したりする中で、実現可能な計画の見直しを行い、体づくりに継続して取り組んでいく。
充実した教育課程	幼稚園教育要領の内容に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情、意欲及び態度を育てる。	① PDCAサイクルを活かした保育を実践し、接続期カリキュラム(保幼・幼小)の充実を図る。	学びや発達を見通した計画通りの連携・交流活動が難しく、互いの活動内容を知ることができなかった。園内研やケース会など話し合いの場を多くもち情報共有や子どもの育ちの確認をしながら保育を進めることができた。掲示等で全職員に周知して、「幼児期の終わりまでに身につけたい力」を意識して保育を実践することができた。	コロナ禍において連携はできない状況であり、致し方ないと思う。その中で幼児期の終わりまでに身につけたい力を意識して教育されていた。	C	経験や育ちを把握し、長期的な見通しをもった保育を展開できるようにPDCAサイクルの中で計画・実践を行っていく。また、保育所・小学校と連携をもちながら接続期のカリキュラムの充実を図っていく。
		② 自ら考えたり、工夫したり試したりできる環境の構成や援助を行う。	教師は子どもの興味関心を促すような様々な教材や自然物など自分なりに工夫して環境を整えることができた。友達や教師と一緒に、準備した教材や環境で主体的に遊ぶ子どもは72%だった。工夫したり試したりして遊ぶことは十分でなかった。	教材に対して工夫され準備ができていると思われる。不十分な点を徐々に改善していくようにしてください。	B	身近な用具の使い方や必要量が分かるような経験、様々な素材の特性に気づく経験ができるように、援助やそれに伴う教材研究に努める。
		③ 食べる楽しさや意欲を育てるための環境の充実や工夫を行う。	食への意欲がもてない子どもが多い中、子どもの思いをくみ取りながら無理のないように量加減をしたり一緒に食事をしたり声をかけていくことを園全体で取り組むことができた。栽培収穫の経験も積み重ね、いろいろな食材に関心をもち、自ら食べるようになった子どもが約85%に増えた。	食への意欲関心を大いに高めることができた。また、栽培収穫できたものを持ち帰って家庭との連携の中で食育に取り組めたと感じた。	A	家庭との連携の中で取り組んでいくために、高知県教育委員会「生活リズムチェックカード」や夜須中学校区「ふれあいカード」を活用しながら、家庭への啓発をさらに行っていきたい。
信頼される幼稚園	保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を確立する。	① 保護者に積極的に情報発信を行い、子どもの姿や育ちを共有・共感する。	写真を活用した便りやドキュメントなどで、子どもの姿を積極的に発信できた。親育ち支援・家庭支援の視点からは保護者向け本の紹介や生活リズム、愛着形成、メディアに関してなど伝えることができた。便りの返信欄を設けたが保護者からの記入は少ない。保護者アンケートで「遊びの様子や成長の姿をわかりやすく伝えていく」と肯定的に答えた保護者は97.2%	保護者・地域への情報発信は十分にできている。子どもの姿だけでなく様々な観点からの情報発信ができていて、保護者の満足度もアンケートから読み取れる。	B	便りやドキュメントの活用、保護者との対話を今後も大切に継続していく。あそびの中で、子どもが何を経験し、どのような学びや育ちにつながっているかを、より分かりやすく発信していく。
		② 保護者との信頼関係をもとに、地域や関係機関と連携して子育て支援・保護者支援を行う。	コロナ禍での参観日の内容を協議し、学年で分けたり、時間配分を変えたり、情勢や感染防止対策をふまえた取組ができた。4歳児の保護者が園での様子を見る機会がなかったため、園生活をパワーポイントで紹介したり、24名中7名の新入児がいる保護者同士のつながりをもつため学級懇談を設けるなど工夫できた。	保護者との信頼関係のもと、親子での活動や保護者の課題など考え、工夫された行事が実施され充実していると思われる。保護者同士をつなぐ工夫を期待します。	B	参観日や学級懇談、PTA行事などを通して、保護者同士の関わりやつながりを意識して取り組む。防災に関しての取組は保護者をまきこんだ内容の充実を図る。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要